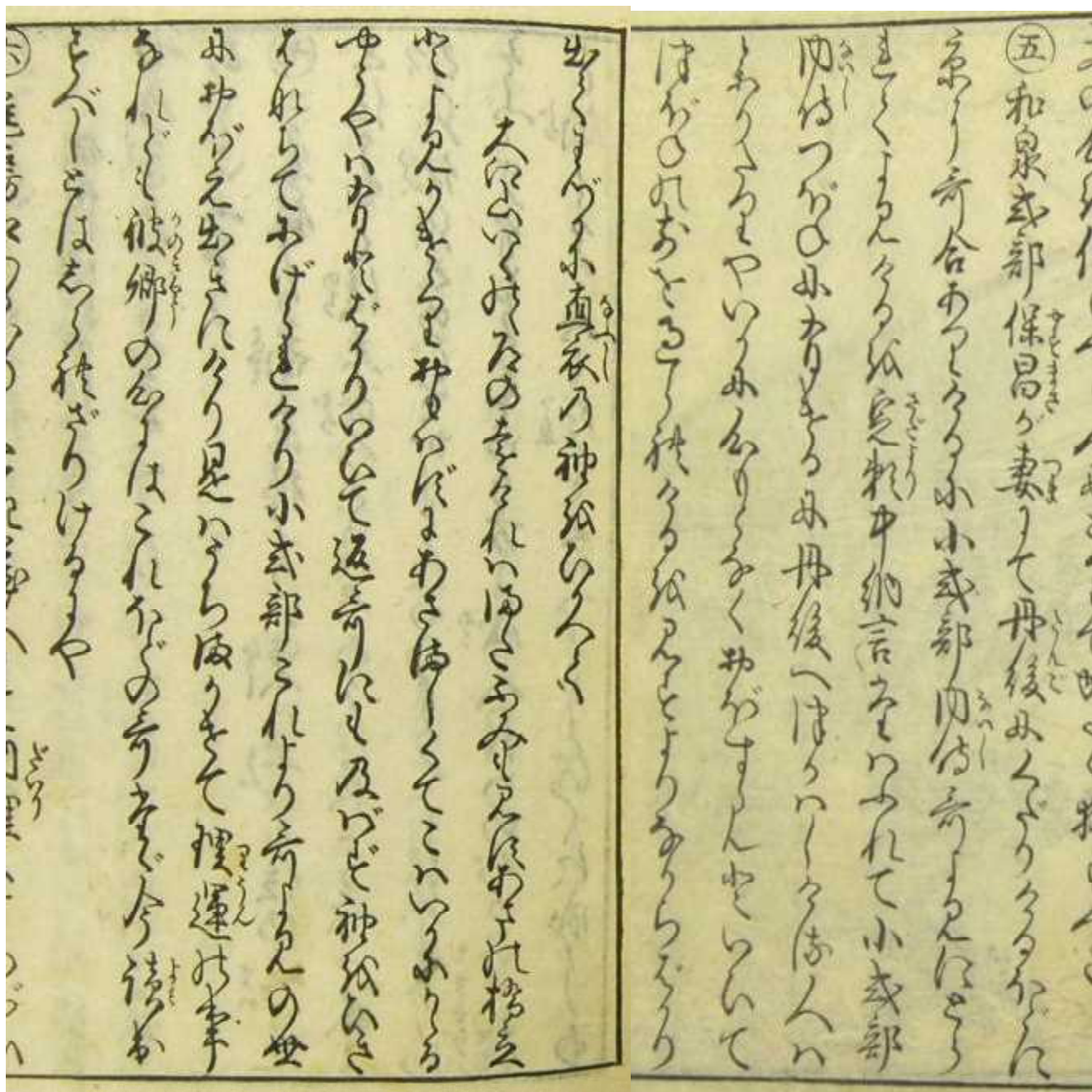


版本「十訓抄」

※原本にない句読点、濁点を加えた。展示されない本・部分を含む。

五 和泉式部、保昌^{やすまさ}が妻^{つま}にて、丹後^{たんご}にくだりけるほどに、京に歌合ありけるに、小式部内侍^{ないし}、歌よみにとられてよみけるを、定頼^{さだより}中納言^{さだより}たはぶれて、小式部内侍^{ないし}つぼねに有けるに、「丹後へつかはしける人は参りたりや。いかに心もとなくおぼすらん。」といひて、つぼねの前を過られけるを、みすよりなからばかり



出て、わづかに直衣^{なふし}の袖をひかへて、大江山いくのゝ道の遠ければまだふみも見ずあまの橋立とよみかけり。おもはずにあさましくて、「こはいかに、かゝるやうやは有。」とばかりいひて、返歌にも及ばず、袖をひきはなちてにげられけり。小式部、これより、歌よみの世におぼえ出きにけり。是はうちまかせて理運^{りうん}の事なれども、彼卿^{かのきんやう}の心には、これほどの歌、たゞ今読^{よみ}出すべしとは、しられざりけるにや。

和泉式部、保昌^{やすまさ}が妻にて、丹後に下ける程に京に
 歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられてよみ
 けるを、定頼の中納言たはぶれに、小式部の内侍に、
 「丹後へつかはしける人は参りにたるや」といひ入て、局
 のまへを過られけるを、小式部内侍、御簾よりなかば

わが或る保昌^{やすまさ}が妻ありて丹後へ下る程に京に
 歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられてよみ
 けるを、定頼の中納言たはぶれに、小式部の内侍に、
 「丹後へつかはしける人は参りにたるや」といひ入て、局
 のまへを過られけるを、小式部内侍、御簾よりなかば
 いで、なをし袖をひかへて、
 おほへ山いく野々みちのとをければ
 まだふみもみずあまのはしだて
 とよみかけけり。思はずにあさましく、「こはいかに。」と斗
 いひて、かへしにもおよばず、袖をひきはなちてにげ
 られにけり。小式部、是より歌よみの世におぼへいでき
 にけり。

夏云出ヨリハ遁避一夏也 有歌合之此長
元秋小式部内侍入寄人^ミ時母泉式部為
保昌妻^ト在丹後國定賴卿小式部内侍局前
立^テ寄^テ戲^テ云イカニ丹後へ人ハ被遣候哉
未^ダ敢^リ忝^ニ云^テ起^ツ時式部取直衣袖云
大江山いくれものさばられ
よゝももゝあゝのゝり
定賴卿ヒキヤリ逃^タト云

有ル歌合ノ之此（長

元歟）、小式部ノ内侍、入ル^ニ歌人^ニ之時、母泉式部為^テ二
保昌^ガ妻^ト一在^リ二丹後ノ国^ニ一、定賴卿、小式部ノ内侍局ノ前^ニ
立^チ寄^テ、戲^テ云。「イカニ。丹後へ人ハ被^レ遣^ハ候哉。
未^ダ二歸^リ参^一歟。」ト云テ、起^ツ時^ニ、式部、取^テ二直衣ノ袖^ヲ一云。

大江山いくのゝ道のとをければ
まだふみもみずあまのはしだて
定賴卿ヒキヤリ逃^ニト云々。

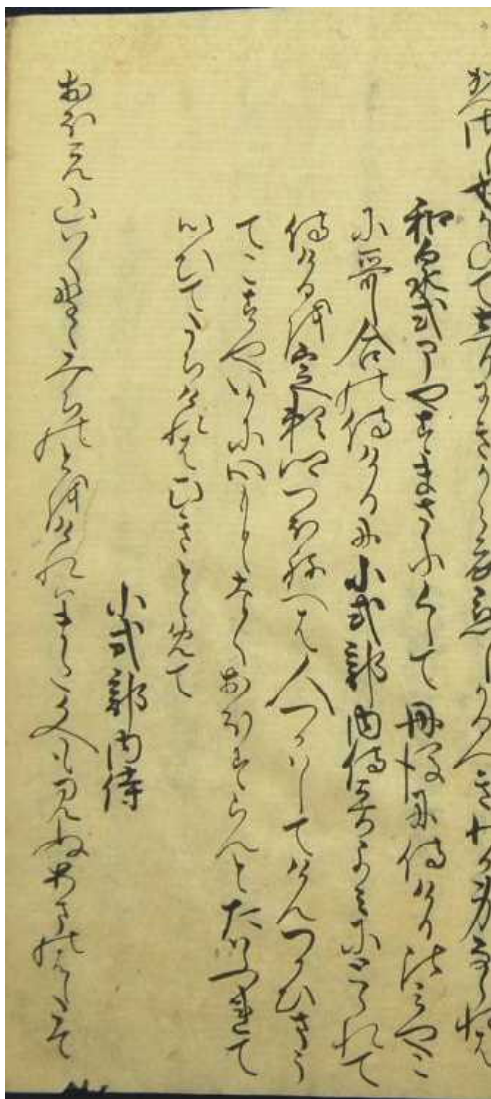
写本「金葉和歌集」 A

(★…底本・祖本に脱行、あるいは転写したときに目移りがあつたか。)

和泉式部、やすまさにぐして、丹後に侍ける比、みやこに歌合の侍けるに、小式部内侍、歌よみにとられて侍けるを、定頼卿、「つぼねへは人つかはしてけん。つかひまうでこずや。いかに心もとなくおぼすらん。」と、たはぶれていひて、たちければ、ひきとづめて、

小式部内侍

おほえ山いく野々みちのとをければまだ文も見ぬあまのはしだて

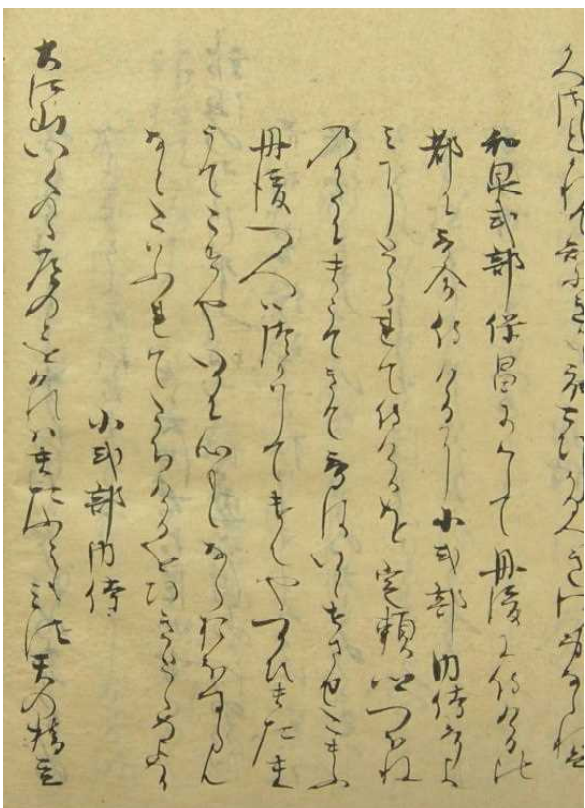


写本「金葉和歌集」 B

和泉式部、保昌にぐして、丹後に侍ける比、都に歌合侍けるに、小式部内侍、歌よみにとられて侍けるを、定頼卿、つぼねのかたにまうできて、「歌はいかゞせさせたまふ。丹後へ人はつかはしてけんや。つかひまだまうでこずや。いかに心もとなくおぼすらん。」など、たはぶれてたちけるをひきとづめ、よめる。

小式部内侍

大江山いくのゝ道のとをければまだふみもみず天の橋立



下冊表紙



極札
上冊に貼付



オモテ 高倉殿永孝卿 金葉和歌集 朱印「養心」

全部

ウラ 右肩に朱印割印「正極」

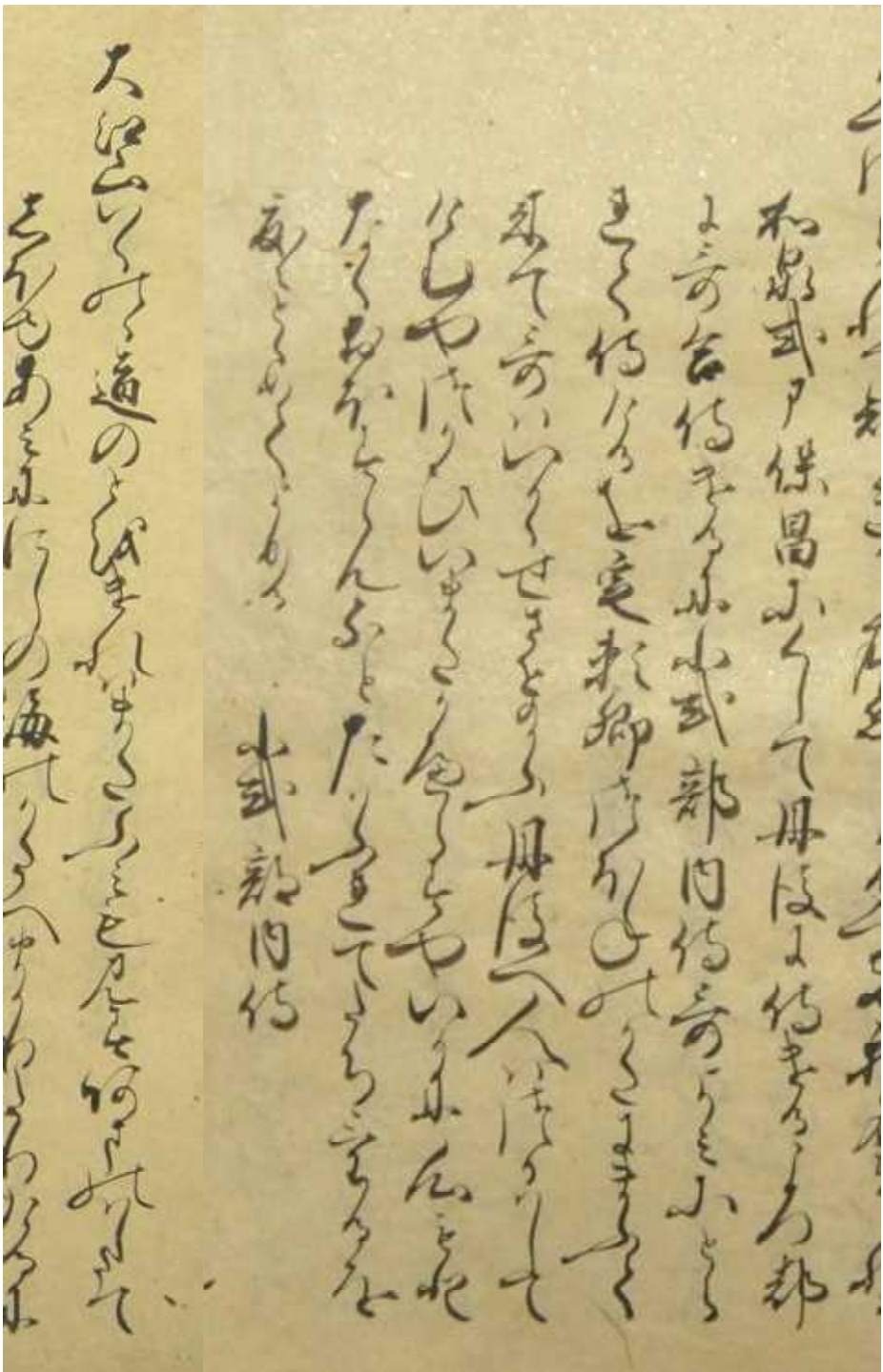
上 うちなびき 四半本 卯 癸二 黒印「神田道伴」
下 君うしや

和泉式部保昌にぐして、丹後に侍けるころ、都に歌合侍けるに、小式部内侍、歌よみにとられて侍けるを、定頼卿、御つぼねのかたにまふで来て、「歌はいかゞせさせ給ふ。丹後へ人はつかはしてけむや。つかひいまだかへらずや。いかに心もとなくおぼすらん。」など、たはぶれてたちけるを度々とどめてよめる。

小式部内侍

(★…不詳。)

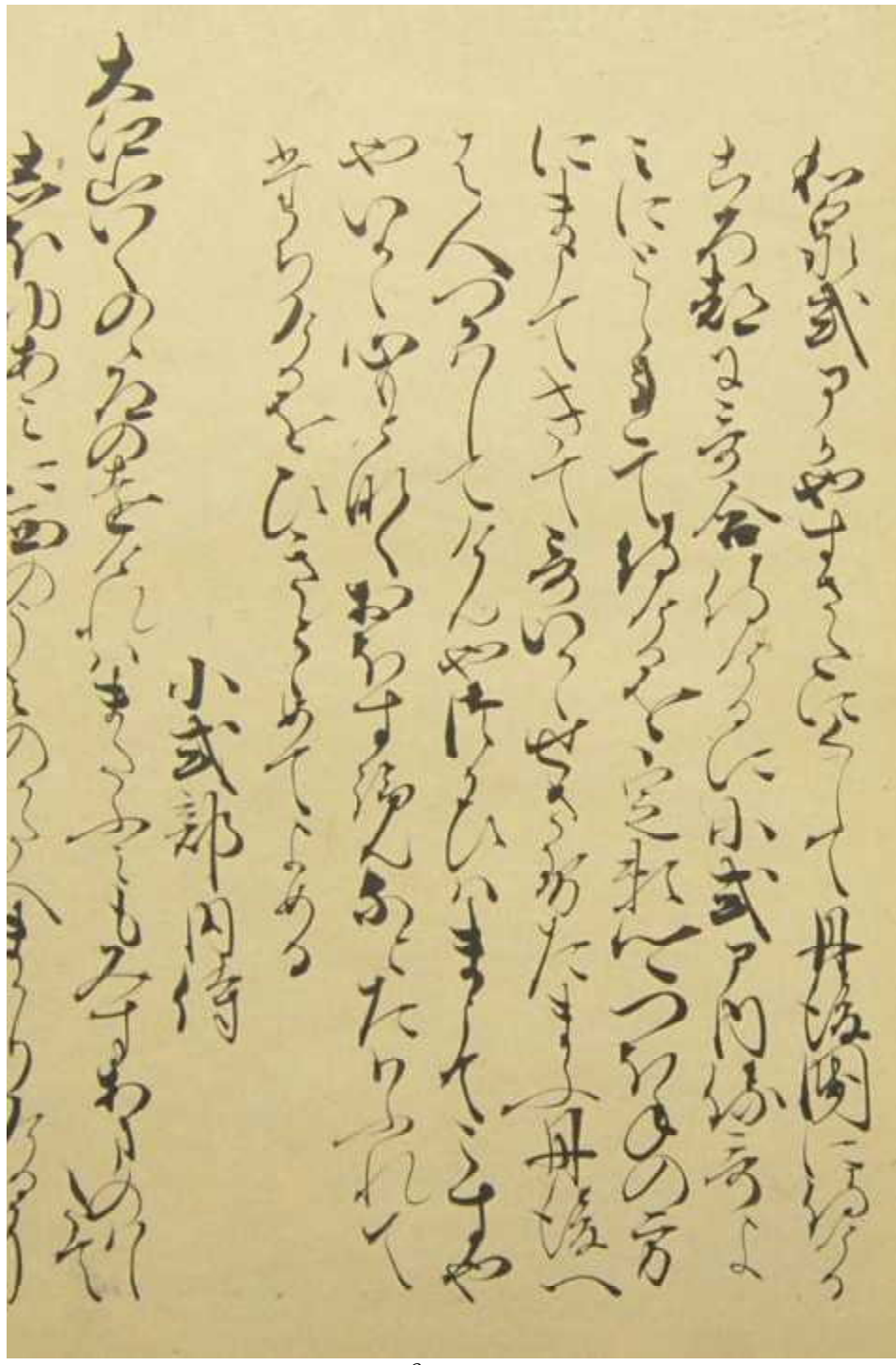
大江山いくのゝ道のとをければまだふみも見ずあまのはしだて



和泉式部がやすさだに具して、丹後国に侍ける
ころ、都に歌合侍けるに、小式部内侍、歌よ
みにとられて侍けるを、定頼卿、つぼねの方
にまうできて、「歌、いかゞせさせたまふ。丹後へ
は人つかはしてけんや。つかひはまうでこずや
や（衍字）。いかゞ心もとなくおぼす覧。」など、たはぶれて
たちけるを、ひきとゞめてよめる。

小式部内侍

大江山いくのゝ道の遠ければまだふみもみずあまのはしだて

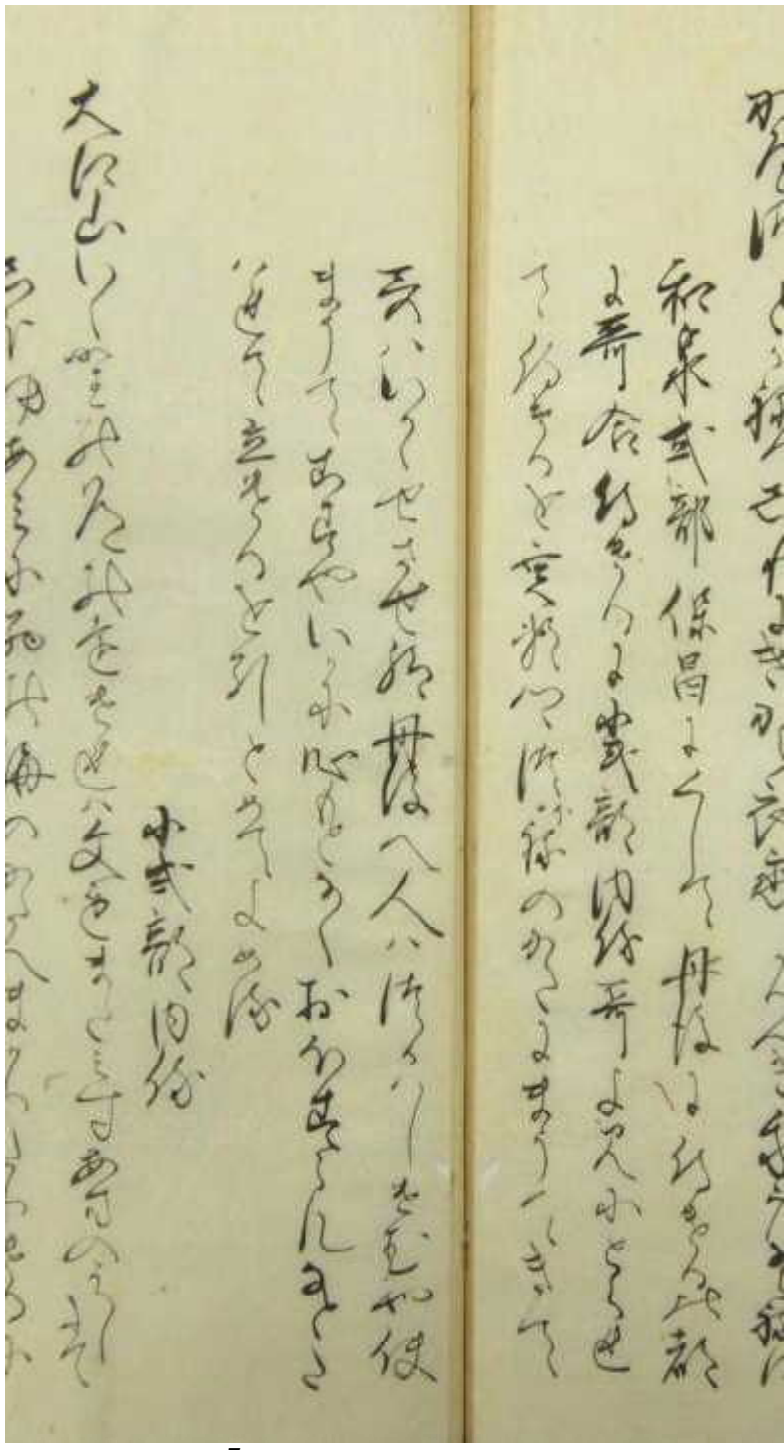


小式部内侍

和泉式部、保昌にぐして、丹後に侍ける比、都に歌合侍けるに、小式部内侍、歌よみにとられて侍けるを、定頼卿、つぼねのかたにまうできて、「歌はいかゞせさせ給。丹後へ人はつかはしてけむや。使まうでこずや。いかに心もとなくおぼすらん。」などは、たはれて立けるを引とめて、よめる。

小式部内侍

大江山いく野の道の遠ければ文をまだみずあまのはしだて

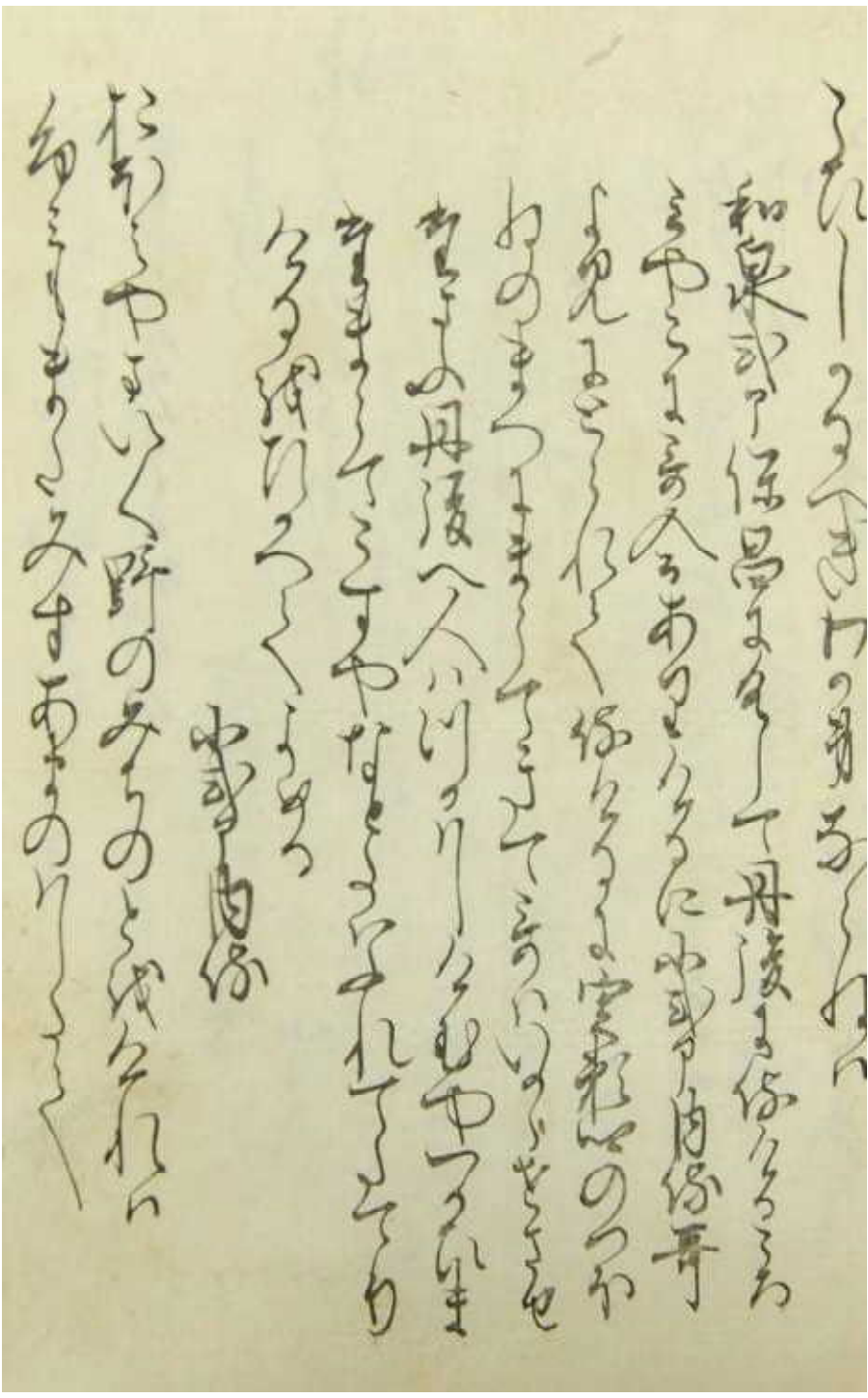


版本「金葉和歌集」

和泉式部、保昌に具して、丹後に侍けるころ、
みやこに歌合ありけるに、小式部内侍、歌
よみにとられて侍けるに、定頼卿の、つば
ねのまへにまうできて、「歌はいかゞせさせ
たまふ。丹後へ人はつかはしけむや。つかひま
だまうでこずや。」など、たはぶれてたてり
けるを、ひかへてよめる。

小式部内侍

おほえやまいく野のみちのとをければ
ふみもまだみずあまのはしだて





第五冊表紙

刊記

尾崎雅嘉大人著

大石真虎図「年魚市郡故郷」

天保四年癸巳秋新刻

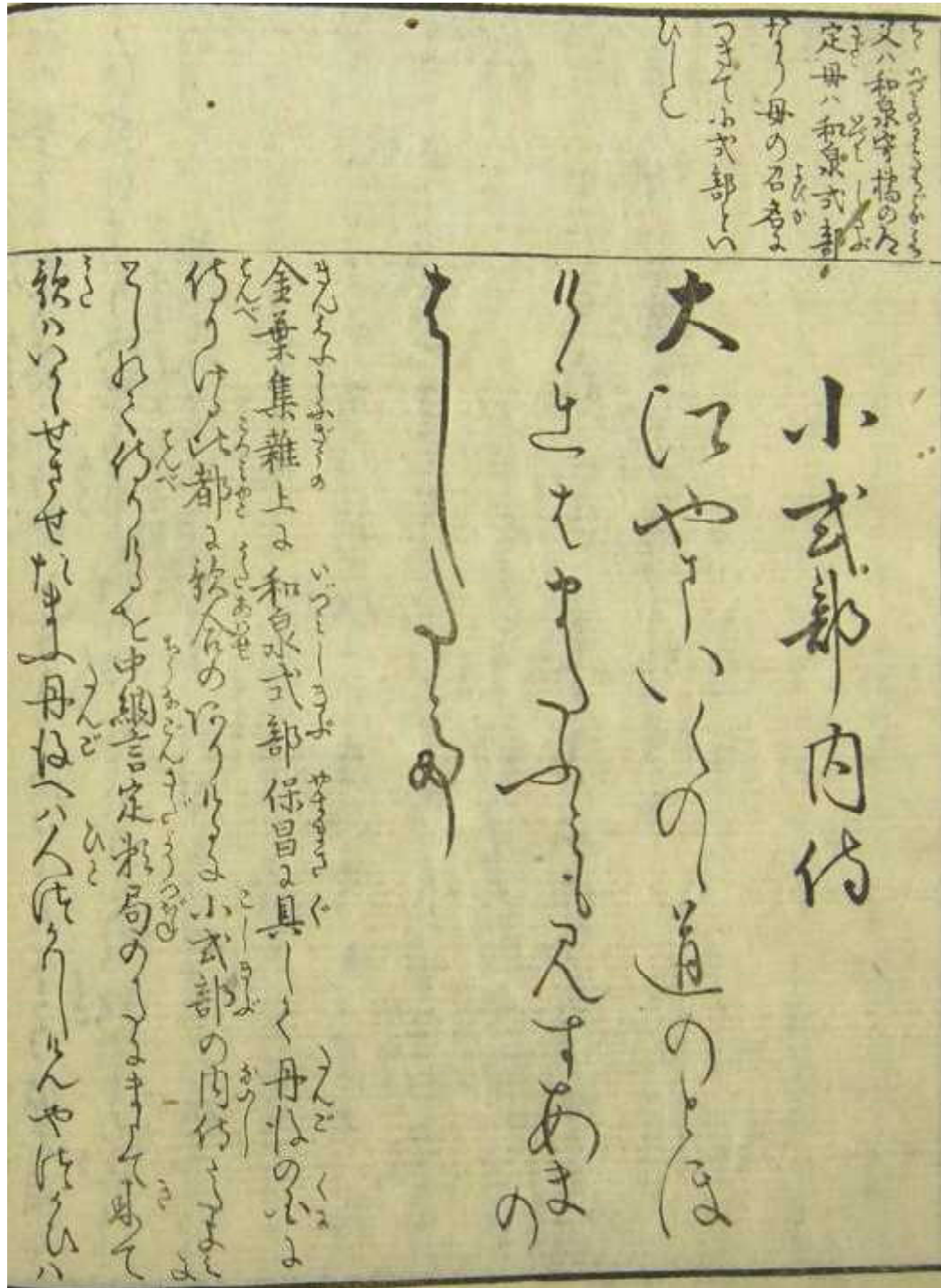
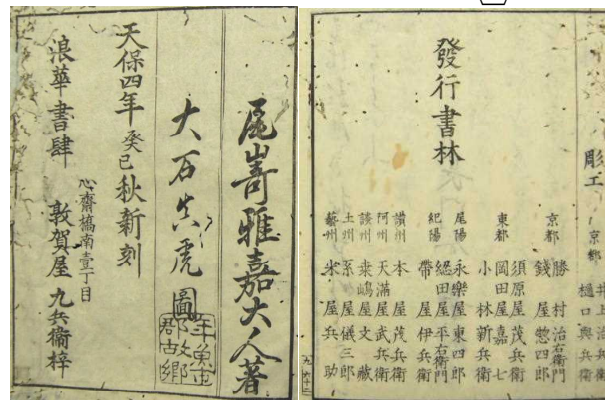
浪華書肆

心齋橋南壺丁目

敦賀屋九兵衛梓

父は和泉守橘の道
定、母は和泉式部
なり。母の召名に
つきて、小式部とい
ひし也。

小式部内侍
大江やまいくの道のとほ
ければまだふみも見ずあまの
はしだて



金葉集雑上に、和泉式部、保昌に具して、丹後の国に
侍りける比、都に歌合のありけるに、小式部の内侍、うたよみに
とられて侍りけるを、中納言定頼、局のかたにまうで来て、
「歌はいかゞせさせたまふ。丹後へは人つかはしけんや。つかひは



まうで来こずや。いかにこゝろもとなうおぼすらん。「などたはぶれて、ち
けるを、引ひとぐめてよめるとあり。此この事は、おくのものがたり話の所ところに
いはず。此歌のこゝろは、「母の往ゆて居ゐるゝ丹後の国へ下くだるには、丹波路の
大江山、幾野などゝいふ所ところありて、其名さへおほきなるやま、幾いくばくとも
しれぬ野といふやうなる所にて、道のほども遠とほきによりて、いまだたよりの
ふみも見侍らず。」といふ事を、彼丹後にある天の橋立をふみても見ぬと
いひなしたるものにて、大江山・幾野・天の橋立の三つの名所をよみ入て、
思ふ心をあらはしたる歌也。

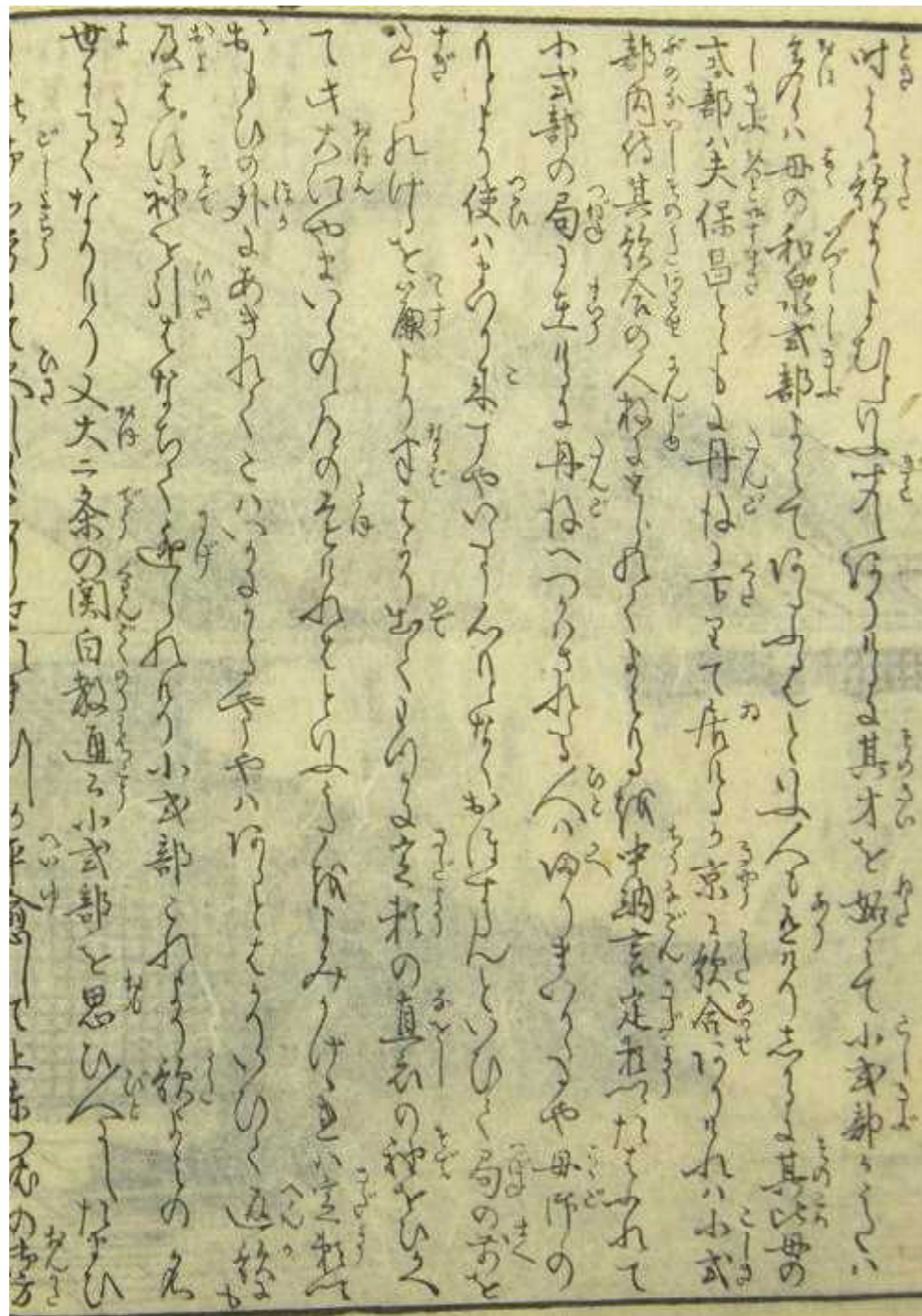
まうで来こずや。いかにこゝろもとなうおぼすらん。「などたはぶれて、ち
けるを、引ひとぐめてよめるとあり。此この事は、おくのものがたり話の所ところに
いはず。此歌のこゝろは、「母の往ゆて居ゐるゝ丹後の国へ下くだるには、丹波路の
大江山、幾野などゝいふ所ところありて、其名さへおほきなるやま、幾いくばくとも
しれぬ野といふやうなる所にて、道のほども遠とほきによりて、いまだたよりの
ふみも見侍らず。」といふ事を、彼丹後にある天の橋立をふみても見ぬと
いひなしたるものにて、大江山・幾野・天の橋立の三つの名所をよみ入て、
思ふ心をあらはしたる歌也。

小式部内侍の話

和泉守道貞のむすめ也。母の和泉式部、小式部を生て後、夫道貞
病死しければ、此むすめをつれて藤原保昌に嫁しけり。小式部、幼少の

和泉守道貞のむすめ也。母の和泉式部、小式部を生て後、夫道貞
病死しければ、此むすめをつれて藤原保昌に嫁しけり。小式部、幼少の

ときより、歌よくよむといふ聞えありけるに、其才を妬みて、「小式部がうたは、
 多くは母の和泉式部よみてあたふる也。」といふ人も有けり。しかるに其比、母の
 式部は、夫保昌とゝもに丹後に下りて居けるが、京に歌合ありければ、小式
 部内侍、其歌合の人数にとられてよみけるを、中納言定頼卿たはぶれて、
 小式部の局に在けるに、「丹後へつかはされたる人は帰りまいりたるや。母御の
 もとより使はまいり来ずや。いたう心もとなくおぼすらん。」といひて、局の前を



過ぎられけるを、簾より半ばかり出て、わづかに定頼の直衣の袖をひかへ
 て、此「大江やま、いくのゝ道の遠ければ」といふうたをよみかければ、定頼卿、
 おもひの外にあきれて、「こはいかに。かゝるやうやはある。」とばかりいひて、返歌にも
 及ばず、袖を引はなちて逃られけり。小式部、これより歌よみの名、
 世に高くなりけり。又大二条の関白教通公、小式部を思ひ人にしたまひ「以下略」

「百人一首かるた」



右 小式部内侍

中 権中納言定頼

左 和泉式部

大江山

生のゝ

みちの

とふければ

まだふみも見ず

あまの

はし立

朝ぼらけ

うちの

川ぎり

たゑぐゝに

あらわれ

はたる

瀬々の

あじろぎ

あらざらん

此よの外

思ひ

出でに

今ひとたびの

あふことも

がな



鶴見大学図書館蔵

鶴見大学図書館 第六九回 ミニ展示 「大江山の歌」 展示案内 (よみ) 二〇一七・七・一三 第一版

◇誤脱がありましたら、どうぞご容赦ください。 松本